



札幌東支部

寺田 純子
Jyunko Terada

今年のTKCタックスフォーラム2018は、飯塚毅生誕百年記念という副題が付いて、平成30年10月15日（月）、リーガロイヤルホテル東京で開催されました。前日、主人と2人で、埼玉県深谷市の渋沢栄一記念館を訪れたく、朝早く飛行機に乗りました。天皇陛下と皇后様が訪れたとの新聞記事を見て、東京都北区にある渋沢栄一資料館には私は一度訪問しているのですが、やはり、生誕の地を見たくて、飛行機を降りてから約3時間、深谷市まで行ってきました。皇后様が関心を示したという藍玉を拝見し、また、大変子たくさんだったというお話ですが、財産を公益法人に寄附をするという遺言書を残しており、子どもには教育を受けさせれば、財産を残す必要はないという考え方だったという実際にそれらの資料を見なければわからないことを、解説員の方にお話していただき、感銘を受けて帰ってきました。

次の日はタックスフォーラムです。今年は、まず第1部の研究発表はTKC関東信越会の「税理士の職務とリーガルマインド ―要件事実論の実務への展開―」でした。ここ数年、要件事実論のお話が続いていましたが、それを税務調査及び書面添付にまでつなげた発表はお見事でした。

第2部の講演は、「最高裁判決から見た租税法の解釈適用」として、慶応義塾大学大学院法務研究科教授の佐藤英明先生のお話でした。最高裁判所の判決も、時代とともに変わってきていて、現在の最高裁は、文言の厳格解釈を行い、租税法令の文言の解釈は、日本語について健全な言語感覚を有する法律家の自然な理解に従うことが、法的安定性（予測可能性）の重視につながるとのこと。なんとなく聞いているときはわかるの

ですが。

第3部は、飯塚毅博士の「『正規の簿記の諸原則』論 ―その歴史的な位置づけと現代への提言―」と題してTKC全国会会長坂本孝司先生のお話で、正規の簿記の諸原則ってこんなに難しいものだったとは…と改めて感じました。

第4部は、飯塚真玄TKC全国会最高顧問の「飯塚毅博士の職業的使命感はどこから生まれたのか」これも、生い立ちからお話を聞き、すごく勉強になりました。そこで渡された“租税正義の実現を目指して”の中の参考文献一覧のなかで、所長が確認したいと思った雑誌があり、翌日は「公益財団法人租税資料館」に行ってきました。これも遠かったですね。

その日4時半の飛行機で、私はマッサージかデパート巡りでもしようかなと思ったのですが、租税資料館へ。どこかよく分からない所に行くときは、いつも意見の不一致を見るので、いろいろ歩きながら違う方向を見ている2人ですが、なんとか到着。法律時報の昭和45年5号をコピーしてきました。山本守之先生の体系法人税法が年代ごとになって、関心して帰ってきました。一度行きたいと思っていた租税資料館。これを維持していくことの大変さを感じながら今年の勉強会が全て終了し、楽しかった反面、また出かける理由を探している私です。

